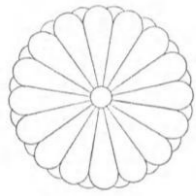


### 私が選んだ越前市の宝物 その② さくらのまち・たけふ菊人形 全国唯一「菊」がテーマの、万葉菊花園



皇室の紋  
十六葉八重表菊

引用:日本政府・内閣



鎌倉時代、後鳥羽上皇が菊を大変好み、自らの印として愛用しました。その後、皇室の紋として十六葉八重表菊が定着しています。

今日では、菊は、私たちのパスポートのデザインをはじめ、コイン、紙幣に使われ、「さくら」とともに事実上の国の花となっています。

日本の伝統や文化を表す花として尊重されています。いわば、現在の日本のシンボルです。

越前市は「たけふ菊人形」の街です。土田のぶよしは、幼少のころから「たけふ菊人形」が、大好きでした。もちろん現在もです。こんな越前市民が多いのではないのでしょうか。

もともと、本市は北陸随一といわれるほど菊づくりが盛んで、秋には寺社の境内で自慢の菊を展示し技を競っていました。

今日でも、大菊の1本の芽から、7本の枝を伸ばす7本仕立栽培など、独自に進化した技が伝承されています。

そして、市の花は、「菊」です。

これらを背景に、本市は、全国で唯一の「菊」をテーマとした都市農村交流施設、「万葉菊花園」を配置しています。ここでは、年間を通じて「たけふ菊人形」用の菊の栽培見学や展示が行われ、菊づくり講習会も開催されています。これは、本市が全国や、海外に自慢できる取り組みです。



たけふ菊人形の  
ゴーカートに乗る土田のぶよし



全国唯一 菊をテーマとした  
都市農村交流施設「万葉菊花園」

### ● おわりに

現在、本市自慢の「菊」や、「たけふ菊人形」の始まりにスポットを当てた取り組みが企画されています。

演劇「菊の都ものがたり」～時代を超えて～の公演です。劇の背景はつぎのとおりです。

終戦後の暗い世相の時代、当時の尾崎稲穂市長(武生市第2代市長)は、なんとか明るく楽しい町をつくりたいと、菊人形開催を決断します。

しかし、菊人形を展示するにあたり、武生には菊人形をつくる技術者がいません。

尾崎市長は、枚方で菊人形の開催にかかわっていた大西工芸社の協力を取り付けます。

土田のぶよしは、枚方の大西工芸社社長(劇中は、小西工芸社)の役で、ちょこっと出演します。そして、本市出身の吉本芸人「シベリア文太」さんが、特別出演します。お楽しみです。是非、ご覧ください。

シニア劇団あすなろ第3回公演

## 菊の都ものがたり

～時代を超えて～

脚本・演出/北西 紀野美

特別出演 シベリア文太 吉本興業

日時 令和8年5月10日(日)午後2時  
開場 午後1時30分

場所 越前市文化センター大ホール

入場料 一般前売り 1,500円 一般当日 1,800円  
中学・高校生 1,000円 小学生 500円  
未就学児 無料

ホワイエにて  
昼12時より  
スイーツやドリンクの  
販売を行います

# 土田のぶよし

## 通信



発行 土田のぶよし 携帯 090-2834-8861 Mail nobut2001@yahoo.co.jp

### 令和8年度当初予算・補正予算、 計407億8,660万7千円 可決

令和8年度当初予算398億5,200万円、令和8年度補正予算9億3,460万7千円、合わせて407億8,660万7千円を、先般の議会で可決しました。内容は、

- ① 安全・安心、災害に強いまちづくりを推進する取組み、
- ② こども・子育て世帯への支援
- ③ 市民活躍を支える取組み
- ④ DX等の推進、です。

DX:デジタル技術により生活やビジネスそのものをより良い方向へ変えること

有難いのは、小学校給食の無償化の予算が付いたことです。

土田のぶよしは、子育て支援として、小・中学校給食の無償化求めてきました。学校給食は、義務教育の一環です。東京都のように財政が裕福なところは、無償で、財政にゆとりがない自治体は、有償では困ります。ますます格差が広がりかねません。

立憲・維新・国民の3党は、2024年12月に、公立の小中学校などの給食費を無償化する法案を共同で提出し、国会で大きな論点となっていました。2025年の通常国会で、自民・維新・公明の3党が合意し、小学校の無償化が決まりました。国の支援額は、児童1人当たり月額5,200円です。越前市は給食費が補助額を上回ることから、差額の自己負担が残ります。

しかし、令和6年12月議会での、学校給食の無償化を求める請願の採択が実現しました。国・県の交付金に加え、市独自の追加支援により、新年度から小学校の給食費が無償となります。3億3,126万円余が、可決されました。この請願の紹介議員は、大久保恵子議員と土田のぶよしです。市議会議員20人中、17人が賛同しました。

また、物価高騰対策として、4億190万円が計上されました。越前市に住民登録があり、平成19年4月1日までに生まれた方が対象です。一人当たり5,000円分のデジタル商品券又は、紙商品券が配布されます。6月下旬に個人当りに「通知はがき」が届きます。市内の商品券参加加盟店で使えます。

### 下水道料金の見直し



越前市は、市水道料金・下水道使用料等協議会から「下水道料金を令和8年10月検針分から、25%の引き上げが必要」との答申を受け、見直しの提案がありました。

土田のぶよしは、次のことを要望しました。「いつまでも下水道区域以外の方からの税金、つまり一般会計からの繰り入れに頼る会計では困る。下水道使用料の見直しは必要。しかし、値上げは、物価高騰が続く中で市民の負担が大きい。賃金の上昇や国の経済対策を見てからにしていきたい。」

市からは、「段階的な引き上げや、国の交付金活用など、市民負担を軽減できるよう検討を進める」との回答を得ました。



この「議会報告通信」は、政務活動費を使って作成しています。



小学校 無償化



幼稚園・中学校 3割支援

保育園等 28%支援

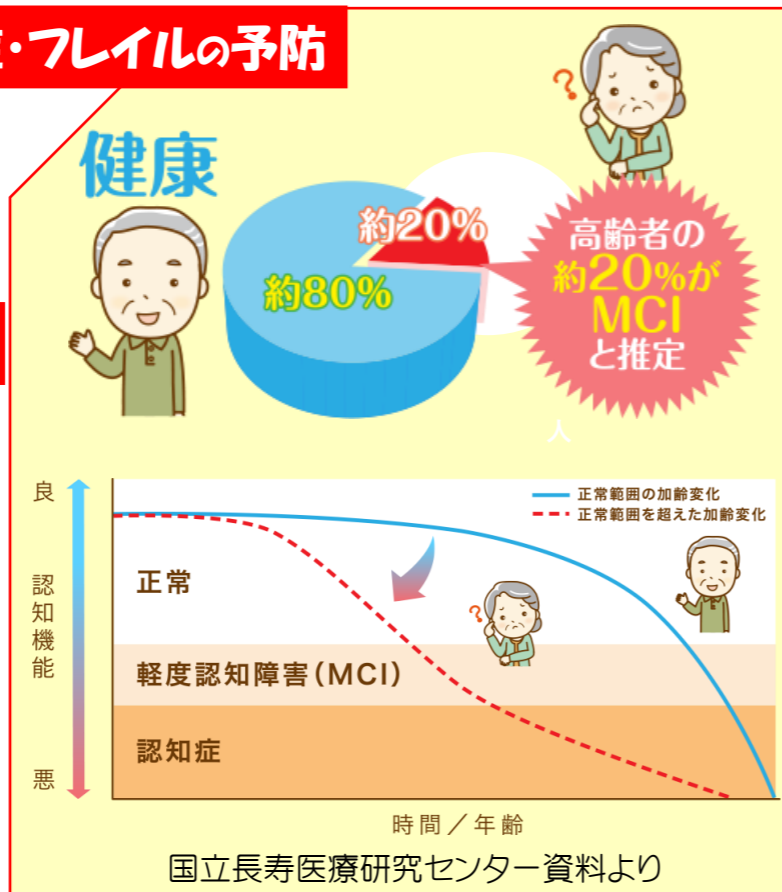
### 小学校給食の無償化



### くらし応援商品券を配布

### 科学的根拠に基づく認知症・フレイルの予防

高齢者の認知症の割合は、生活習慣の改善などにより低下傾向にあります。一方、認知症の一步手前とされる軽度認知障害(MCI)の割合は20%と、課題を抱えています。



### 3者協定による認知症予防

市は、令和7年11月、市民の認知症予防や健康増進につなげるため、国立長寿医療研究センター(愛知県大府市 荒井秀典理事長)、ほっとリハビリシステムズ(越前市高木町 松井一人代表)との3者にて、連携協定を結びました。

「ほっと」は、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)などを多数配置し、身体機能回復の専門性が高い事業所です。

市は、この3者の協定に基づき、「認知症・フレイル予防」を推進するため、令和8年度当初予算に4,026千円を計上しました。

この事業は、まず、同センターが開発した脳の健康度をチェックするウェブサイトを市民に利用してもらいます。利用者は、自身の認知機能を「データ」により見える化でき、状況により「脳活チャレンジ教室」へ案内されます。教室は市内で介護予防教室を開いている「ほっと」が受け持ち、同センターが考案した運動法などによって頭と身体健康増進につなげます。

MCI(軽度認知障害)の段階で発見し、生活習慣を改善することで、認知症への進行を遅らせようとする事業です。



土田のぶよしは、市役所職中に介護状態にならないように、町内単位での「つどい」や「サロン」を推し進めました。(平成29年)

市はその後、包括支援センターを設置し、「介護が必要になる前の段階(フレイル)」を対象とした予防活動などに力を入れています。その結果、介護が必要な方の割合が増加せず、元気な方が増え、全国の

要介護認定率20.08%に対して16.13%と、介護が必要な方が2割も少ない状況です。(下図表参照) 令和6年度の決算額を見ると、介護保険給付費は73億円かかっています。もしも、国と同じ率で要介護者がいるとすると、年間に87億円の費用が見込まれます。年14億円以上の介護保険の支出が減っている試算になります。



このことで、越前市は全国平均よりも介護保険料が安く、負担が低くなっています。(上図) 地域の方で、町内体位での「つどい」や「サロン」が継続され、包括支援センターをはじめとした介護予防関係者のご尽力のお陰です。ありがたい事です。

土田のぶよしは、予算審議にあたり、これらのことを評価し、「3者連携協に基づく認知症・フレイル予防の事業」への期待を表明しました。

